

令和8年3月26日

鳥越真由美 様

吉岡 政昭

昨日は、立候補の手続きの事前説明会、ご苦労様でした。  
また、その後に行われた議会事務局での鳥越さんの「東京外語専門学校」の卒業証書の確認をさせていただき、有り難うございました。

目視ではありましたが、外形的風骨からして信じるに足ると思えました。  
ですから、今回の件は、私が謝罪すべき状況にあると思ったのですが、突然、高圧的に（私にはそう感じられました）「謝罪」を求められ、時系列的に言えば、この8年間、私からの質問に対し、終始逃げ回っていた状況であり、私の受け止めとしては、「真実にきちんと向き合い事実を語り理解して欲しい」という姿勢は片鱗もなく、ただ、逃げ回り、避けていた状況でした。それをあなたは、「吉岡さんの心象」と言いまして、「単なる印象」と言いたかったのかも知りませんが、「逃げてない」と言い張りました。  
しかし、おそらく誰だって、配達証明の郵便物さえも、受取拒否をされ、顔を合わせれば、すーっと、逃げるような態度が続けば、誰だって、おそらく、逆の立場だったら、鳥越さんでも「嘘がばれるのがイヤで逃げている」という印象を持ったはずですよ。

8年間の時間を振り返れば、卒業証書が出てきたからと言って、突然、攻守逆転して「謝れ」と一方的に要求するのは、いかがか、と考え、これまでの経過を踏まえた対応、態度が求められていると私は思います。

私も、すぐにカッと来て、「李下に冠を正さず」とか「瓜田に履を納れず」など「ことわざ」が伝えている「疑われるような事はするな」「疑われる方が悪い事もあるぞ」との「ことわざ」に触れた時は、「授業の延長」のように受け止めたようで、盛んに「講義はいらない」という風に拒絶しましたね。

これに対する私自身の反射的な対応は、我ながら見苦しいとは思いましたが、また、「経歴に疑問を持って調べて問題にしたのは吉岡さんだけだ」と新聞報道の「経歴の無理」を指摘した私が悪い、と特別扱いをしました。

案外、多くの方が、「いつ、穂別高校卒」から「東京外語専門学校」卒に変わったのか、と素朴に思った人は、あなたが想像する以上に多かったと思います。

最後になりますが、私は、あなたの卒業の証拠を前にして「謝罪」しますが、あなたも、疑問を持って質問を続けた私に対して、謝罪するとの約束でしたね。  
それを信じて、筆を置きます。